

『町田ゆかりの作家の目線で巡るアートレッスン』お散歩ツアー (一般社団法人町田観光コンベンション協会)

1. 「作家ゆかりの場所」を地域資源として捉える

近年、観光に対するニーズの多様化に対応するため、既存の観光ルートの案内だけではなく、着地型観光のひとつとして「文学」「体験」などを新しい観光資源として捉えることで、若者層への訴求を目指すことが必要となってきた。

町田市は、白洲正子、田河水泡、遠藤周作、森村誠一など、著名な作家たちが創作活動を行ってきた街であり、町田市内には彼らにゆかりのある場所が数多く存在する。それらを町田の新しい地域資源と捉え「作家ゆかりの場所」を結んだ商品を企画することとなった。高年齢層の参加率が高い傾向にあったこれまでの町田市のウォーキングツアーとは異なり、「作家の視点」から見た町田の魅力を訴求する若者向けの着地型ツアーへと繋げるため、商品造成をするにあたり、小田急小田原線の鶴川駅・玉川学園前駅・町田駅の3駅周辺に点在する「作家ゆかりの場所」が地域資源となりうるかどうかなど、文献調査による「訴求ポイント」や「ストーリー性」等についての抽出を行うとともに、当該エリアの自治会長及び「町田文学館ことばらんど」にヒアリングを実施し、地域資源の整理を行った。

2. 「アートレッスン」を盛り込んだ体験型お散歩ツアー

作家・著作に関する地域資源の掘り起こし(資源整理)を行うとともに、現地踏査及び関係者ヒアリングを実施し、ツアーテーマ・ツアーガイド・ツアーコースを検討し、散策のみならず、アートレッスンを盛り込んだ体験型となるように工夫した。なお、本格実施の前にモニターツアーを実施し、参加者の意見等のヒアリングを重ねることで、ツアー内容の磨き上げを行うこととした。

【令和元年度 モニターツアー内容】

日 時	ツアー箇所	主なゆかりの作家	アートレッスン
6/1 (8:45~13:15) 9/16 (8:45~13:15)	鶴川	白洲正子・北原白秋・石川桂郎	伝筆
6/22 (8:45~13:15)		白洲正子・柳田国男・畦地梅太郎	
7/7 (8:45~12:30)	玉川学園前	田河水泡・遠藤周作	スマートフォン写真
7/13 (8:45~13:00/ランチ付)		田河水泡・遠藤周作・岡本敏明	
7/15 (10:00~15:00/ランチ付)	町田	三橋國民・シュリーマン・樋口一葉	陶芸
8/4 (9:00~12:30)			浮世絵版画
7/20 (9:00~13:15)		三浦しをん	銀細工

【モニターツアーの効果/事業成果】

- ・ポスターのビジュアル効果もあり、若い年代やファミリー層の参加者が増えた。
- ・作家をテーマとしたまち歩きとアート体験の組み合わせは、若い年代(20代、30代)の誘致にも有効であり、さらにランチ付きのコースの満足度は高かった。
- ・参加者の満足度平均は82.9点であった。

3. 今後、目指すもの

モニターツアーの事業成果から、町田ゆかりの作家・著作を地域資源として活用出来ると確認されたため、次年度以降については、主に以下の取り組みを整理していくこととしている。

①テーマの明確化

- ・作家に関わるアートを掘り起こし、作家/著作との関連性がすぐに分かる体験の選択

②関係者モニターツアーの実施

- ・実施主体関係者をモニターとしたツアーを実施することで、課題抽出及び改善を行った後にツアーの販売する体制を整える。

③誘客可能なツアー料金の設定

- ・アートツアーの講師をプロにした場合は、ツアー料金が高額になる傾向がある。費用対効果を考えると、活躍の場を求めている若手アーティストを掘り起こし、講師として迎えることも検討する必要がある。

④町田市内全域の展開及び、新たなツアーガイドの担い手づくり

- ・相原駅、南町田グランベリーパーク駅周辺など、本事業で未着手のエリアでも地域資源の掘り起こしを行い、全市的な展開へと繋げていく。
- ・多様なガイドのあり方を検討し、ガイド養成講座等により新たな担い手づくりを検討する。

<おわりに>

町田市観光コンベンション協会は、市民が自分達の住んでいる街を再度知ってもらうための「ガイドウオークツアー」を年間 100 回程度催行しており、約 2,000～3,000 名の方々が参加しているものの、行程約 10 km・終日かけて実施されるため、歩き慣れた人や比較的自由の時間が取れる高年齢層の参加者に限られていました。また、「フットパス※1」などの自然を活かした「街歩き」なども推進してきました。

今回の取組は、町田の新しい地域資源である「作家/著作」と「体験」を組み合わせた着地型ツアーを「お散歩ツアー」という気軽に参加できるような名称をつけるなどの工夫を行うことで、若者層への訴求を目指しています。このことは、日本の文化体験や地域文化を活用した旅行者誘致のモデル事業になれることとして期待をしております。

(※1：イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】”のこと。イギリスでは、フットパスが国土を網の目のように縫い、積極的に歩くことを楽しんでいる。)

(地域振興部事業課 地域支援窓口 多摩担当 松岡)

URL：<https://machida-flat.com/>

